

探訪 チャレンジ企業 72

ゴム入り細巾織物製造業から脱皮、独自
路線で衣料品・雑貨小物の製造販売まで
幅広く手掛け、業容を拡大！
株式会社気谷：かほく市

かほく市は日本を代表するゴム入り細巾織物の一大産地。株式会社気谷は昭和三十七年当地で創業、下着やベビー服、マスクゴムとして使用されているコールドゴム（平ゴム）や包装・ラッピング、ヘアゴム用として用いられる丸ゴムを扱っており、色のバリエーションが五サイズ×各五十色ある「ライクラカラーゴム」や世界に誇る高品質ゴム糸など特徴のある製品を生産してきた。また、技術力の高さを見込まれ大手肌着メーカー・ゲンゼの指定工場となり成長してきた。しかし、急激な円高で安い中国製品が日本へ大量に流入、替わりに縫製工場が人件費の安いアジアへ出てゆくなど大きな時代の変化で受注が急減。難局を打開しようとして、吉本社長を先頭に積極的な営業で、アパレル以外の分野を開拓し、手芸店など小売向けの分野に進出、売上を伸ばしてきた。

ジャバンクリエーション（国内最大の繊維見本市）には五年連続出展している。組ひも、ゴムひもの手芸用品からシユシユ（若い女性に人気のヘアバンド、髪飾り）、芳香カラーひもなど毎年新製品を開発展示。直接商談に結びつくわけではないが、自社商品の発信の場と割り切り意欲的に出展している。また、昨年金沢市で開催されたファッションショー「おしゃれメッセ二〇一〇」に組ひもや平ゴムを使用したド

品質管理・生産管理には自信
六 人材育成で厳しい時代を乗り切る

インターネットでのPRにも注力したこと、インターネットを通じて異業種企業や個人客からの問い合わせが多くなった。例えば、広告代理店から、組ひもに企業名をプリントしてタグをつけたものがほしいなど産業資材の注文や個人客からの少量の注文など、利益につながるものも数多くあるが、できる限り注文に応じている。また、異業種企業や個人客からの幅広いニーズに対応する際、稼働して間もない加工センターが有効に活用できている。生地を裁断のほか、折りたたみ、タグ付け、アソート、巻き上げ、カット、縫製も手掛けるようになりインターネット販売との相乗効果が出てきた。

五 インターネットでの販路拡大



ジャバンクリエーション展示

レス衣装を初めて製作出品し、雑誌「アクタス」で紹介されるなど企業PRに一役買った。



吉本勇人社長

（お問い合わせ）

株式会社気谷

〒九二九-1171

かほく市木津八四二一

TEL

〇七六-二八五-二〇一〇

http://www.kikuya-gomu.com/

（取材・執筆：かほく市商工会

内湯浩一郎）

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。

一新製品「オーロラ反射シート」の開発

平成二十二年度いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業（三カ年計画）に採択され、新たな事業として、転写シートの開発に取り組んでいるのが株式会社気谷です。デザイン柄のシートをアイロンで洋服やカバンに簡単に接着、伸びる生地に接着してもシートが生地の伸びに追従して伸びるのが最大の特徴で、従来製品のようにシートが伸びても亀裂が生じることはない。また、この技術を活用して「オーロラ反射シート」という暗い所で光が当たると角度により様々な色に反射するシートも開発している。

この技術をさらに発展させ自動車などの分野の用途に使えないか試行錯誤を重ねている。



オーロラ反射シート

二 ゴム入り細巾織物の一大産地で新たな分野を模索

三 二次加工を新たな収益源に

手芸店で販売される生地は、ロール状に巻かれた反物状態で納品されるが、店頭ではそのまま置くわけではなく、板に巻きつけて陳列されている。そうした反物を板に巻き直したり、生地の商品をニーズに合わせて小分けにパッケージ化する加工作業をするため、自前の加工センターを平成二十年に立ち上げた。自社内で二次加工をすることで、新たな仕事の確保や経費の節減につながった。



本社外観

四 積極的な情報発信

インターネットでのPRにも注力したこと、インターネットを通じて異業種企業や個人客からの問い合わせが多くなった。

吉本社長は、これら人材の育成を行いつつ、企業一丸になってアパレル、産業資材、小売の三本柱で厳しい時代を乗り切っていく決意である。